

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473800603	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	令和4年7月1日
法人名	社会福祉法人ふじ寿か会		
事業所名	高齢者グループホームそまやまの里		
所在地	( 224-0057 ) 横浜市都筑区川和町1813		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年7月1日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『一人ひとりの生活作り』がその生活全体の基にあり、各々の残存機能に合わせ出来る範囲で役割を持って頂き、お互いに助け合いながら生活の側面的な援助という立場を大切に守り生活の安定を考え支援している。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年10月5日	評価確定日	令和4年11月17日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は横浜市営地下鉄グリーンライン「川和町」駅から徒歩8分の住宅街の一角に立地し、付近には緑地があり住環境に恵まれています。建物はモダンな外観で木造平屋建て構造で二つの棟をつなぐ位置に事務室があります。建物内の床はバリアフリーでフローリング仕様となっています。居室の半分は畳の部屋となっています。

<優れている点>

利用者一人ひとりの生活づくりを大切にしており、3ヶ月ごとに生活援助計画を作成し、3ヶ月後に振り返り（評価）を実施しています。また、ユニットごとに月1回開催しているカンファレンス所要時間2時間をかけた会議のなかで利用者一人ひとりの状況を丁寧に把握し、職員間で情報共有を通じてチームとしてケアに取り組んでいます。また会議開催時などの人員のサポートが必要な時はユニット間で補える協力体制が確立しており効率的な運営を図っています。

<工夫点>

読書の好きな利用者のリクエストに応じて「図書コーナー」を廊下の一角に設け、利用者が本や雑誌を静かに読める環境として活用されています。廊下手すりなどの消毒や料理のもやしのひげ取りなどの下ごしらえや配膳の片付けなどの役割の一部を利用者が担っており、できる範囲で日常生活の活動に参加しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高齢者グループホームそまやまの里
ユニット名	けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	2022/11/28	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を玄関、台所、事務所の共用部分に掲げてあり日々のサービスに於いて理念に沿ったケアが出来る様にしている。またカンファレンス等で内容などを再確認し意識づけに努めている。	法人の理念を基に事業所で作成した運営方針を事業所の共用スペースなどに掲出しています。利用者一人ひとりの生活作りを考え、職員一人での行動ではなくチームとしてケアを行い、利用者に寄り添った支援サービスの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で今は参加できていないが以前は自治会に入り地域の行事には極力参加させて頂いている。また事業所の行事等にもお誘いし参加して頂き交流をはかっていた。	自治会に所属していますが、現在コロナ禍のため、ほとんどの活動は休止しています。コロナ前は地域の体操教室などに参加しています。コロナが収束した段階でイベント参加などを通じて地域とのつながりを図っていく方針です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で今はなかなかできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で今は集まっての開催はできていないが役員の方々にご協力いただき書面での開催を行っている。	運営推進会議は現在書面開催で実施しています。会議のメンバーは民生委員、学識経験者、地域包括支援センター職員、利用者家族などで構成されています。会議の議事録と活動状況報告書を添付して各メンバーに送付し会議に対する評価、意見、要望などを聴いています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話での質疑応答や直接足を運び尋ねたりと協力関係は築けてい	都筑区高齢-障害支援課に活動状況報告書などを送付し、事業所の活動について理解を得ています。行政の諸手続き、入居の募集や利用者の後見人などについて相談し、良好な協力関係を築いています。日本認知症グループホーム協会にも所属しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	”身体拘束はしてはいけない”を基に定期的に勉強会を行っており職員は理解している。また基本施錠はしていないが安全性を考慮した上でやむを得ず一時的に施錠する事もある。	身体拘束マニュアルを整備し、職員の入職時に研修を実施しています。身体拘束防止委員会を開催し、その内容を基に勉強会を実施し職員間で周知しています。居室のベランダ側の窓は事故防止の為、夜間のみ一部施錠していません。施錠については事前に家族の同意を得て実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回は研修を行い職員全員が理解し虐待防止に努めている。また言葉がけには注意をはらい、その様な場面を確認した時は直ぐに話し合いを設け防止に努めています。	毎年4月に虐待チェックシートを職員全員が実施しています。不適切なケアがなかったかどうかなどをカンファレンスで振り返り、虐待防止に取り組んでいます。また万一虐待を発見したときの通報方法について職員に周知しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しては尊重しその人にあつた生活が送れる様に支援していく事をカンファレンスにてスタッフに伝えている。また後見人制度に於いては研修にて学ぶ機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご本人、ご家族、管理者で十分な話し合いを設け時間をかけ説明しご理解、納得を得られた上で契約の締結を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、要望はその都度聞いており職員間で話し合い改善に努めている。またご家族に関しては来訪時に何かご意見や要望等はないかその都度尋ね対応している。	日々の活動を通じて利用者の意見・要望を聞きながら対応していますが、外出や近所のスーパーなどへの買い物はコロナ禍で自粛しています。家族からの要望・意見については、来訪時や電話で利用者の様子を伝える時に尋ねて対応するよう努めています。	コロナ禍以前では家族会を年4回実施し利用者との交流を図ったり、運営推進会議に家族が参加していましたが、現在は中断しています。コロナが沈静化した段階で速やかに再開することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングやカンファレンスでの話し合いの中で出た意見、提案などを管理者に相談している。また日常業務の中に於いての意見、提案もその都度話し合い反映させている	ユニットごとのカンファレンス（職員会議）は毎月実施しリーダー以下で取り組み、自由闊達な意見が出るよう配慮しています。カンファレンスは2時間かけて、月間予定、連絡事項、業務改善事項、ヒヤリハット報告、利用者個人ごとにケア状況を確認しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は労働時間、勤務状況、職場の雰囲気等個々の状況を把握しておりやりがいをもちながら働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は労働時間やシフト体制など勤務状況を把握に努めています。事業所スペースを活用して職員の休憩室を確保し、休憩を取りやすい環境づくりに努めています。人員不足を補うため、法人と連携して外国人技能実習生の受け入れを推進しています。	
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験を考慮しそれに見合った研修を受けられる機会を設けスキルアップに努めている。また研修内容を報告する場を設け職員全員で内容を共有している。	職員の専門知識や技術習得のため、外部研修参加や他の事業所交流などを実施し、職員のモチベーションの向上に繋げています。また資格取得のための通信講座なども支援していますが、現在はコロナ禍で外部研修参加や同業者の交流は見合わせています。	コロナ禍が沈静化してきた段階で、外部研修参加や同業者との職員交流を通じてサービスの質を上げていく取り組みの再開を期待します。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍でなかなか交流する機会は作れていない。市の連絡会等で行う勉強会等にはオンライン研修で参加させていただいている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居1カ月は本人の声、様子、要望等を詳しく記録しスタッフ間で共有しながら話し合い安全確保の関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日々の様子を細めに報告し家族との話し合いの時間を十分にとり不安や要望をいつでも相談しやすい環境をつくり信頼関係が築ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず本人、家族に要望を聞き現在の状況、それに見合う必要な支援を見極め、その人が必要としている対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人と家族との関係を理解し、家族との絆を大切にしながら家族と共に本人を支えていく関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	友人の方には自由に来訪してゆっくりと談話して頂いています。またご本人の希望で職員による代筆で手紙のやり取りや年に一度の年賀状の作製等もお手伝いさせて頂いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者同志の関係を把握し必要な時は職員が間に入り利用者同士が楽しいと感じられる関わりが持てる様支援している	友人からの手紙の受け取りや返事の支援、昔住んでいた地域にドライブに行き風景を楽しむなど馴染みの関係継続支援を行っています。また、音楽が得意な利用者が歌の時間にピアノで伴奏するなど本人の生きがいに繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	サービス利用が終了した方も時々面会に行かせて頂いたり、退去されたご家族からの相談も受けたり訪問して頂いたりしています。関係性は継続されていると思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した方も時々面会に行かせて頂いたり、退去されたご家族からの相談も受けたり訪問して頂いたりしています。関係性は継続されていると思います。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	好みや習慣等ご本人の意向を把握しながら出来る限りご本人の要望に沿えるように努めています。	思いや意向などの把握に努め、担当者がアセスメント表を作成しています。それを基にケアプランを作成し本人本位の支援を実践しています。山の好きな利用者には部屋に山の写真を貼ったり、イベントではお好み焼きを作るなど、食を楽しめるような工夫もしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報が事務所に保管されており職員はいつでも記録を見る事が出来共有している。カンファレンスで今までの状況経過の説明がされている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日勤、夜勤にて一人ひとりの状態を細かく記録し申し送り等で現状の把握がなされている。変化があれば直ぐに管理者等に伝える様にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一人ひとりの変化や気づきを職員間で共有し話し合い、ご本人やご家族に相談しながらケアプランを作成し統一したケアを行っている	担当職員がモニタリングを行い、アセスメント目標を立てています。それをもとに管理者が認知症に特化した「生活援助計画」を作成します。3ヶ月に1度見直しを行い職員間で情報を共有し、家族はケアプランの内容を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の日誌や特記用紙に記録していき変化等細かい部分も申し送り等で伝え職員間で情報を共有しケアの実践、プランの見直しに反映されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の方の状況、現状に応じて柔軟な支援やサービスを提供に取り組んでいる。例えばマッサージ、フットケア等（現在は自粛中）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物や散歩、ご近所とのふれあい、地域の行事参加等個々にあった資源を把握しながら生活を楽しく頂いています。（個別に買い物や外食等）（現在はできていない）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1か月に2度かかりつけ医の往診を受けており、その他必要に応じ個々で受診し適切な医療が受けられている。また変化がみられた時はすぐに往診医に連絡を入れ指示を仰いでいる。	利用者は入所時に協力医をかかりつけ医としています。月に2回の内科の往診と週に1回の訪問看護があり、口腔ケアのため歯科医が週に1回来所しています。通院が必要な利用者は家族対応していますが、緊急時には職員が同行しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度看護師の訪問があり個々の情報を伝え相談している。また職員は記録に目を通し情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的には管理者が行っている。入退院の時にはお互い情報交換している。また、医療機関、本人、家族、ホームで話し合いできる限り早期に退院できるように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の意向に沿って出来る限りの対応を行っている。また職員には方針を説明しチームでの支援に取り組んでいる。	事業所は看取りを前提とした生活支援を行っています。かかりつけ医と24時間対応できる協力体制をとっています。終末期に入るとカンファレンスなどで職員間の情報共有を行います。コロナ禍以前は法人内で職員に対して看取りに関する研修を行っていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	講習会等の参加で訓練は受けている。緊急時のマニュアルもファイルしてあるが、実践力を身に付けるまでには至っていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を行っています。そのうち1回は消防署立ち合いで実施している。コロナ禍以前は地域の方にも参加いただいて訓練していた。	年に2回の防災訓練を行っています。前回は消防署立ち合いのもと、夜間を想定した避難訓練と消火器を使った消火訓練を行いました。コロナ禍以前は家主や民生委員が訓練に参加しています。屋外にある倉庫に3日分の備蓄食料品や防災用品を備えています。	設置以来行っていない、防災用品（カセットコンロ、発電機）の動作確認を行うことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけにおいては時々気になることがある。その時はその場で声を掛けるようにしているほか、カンファレンスで再度確認するようにしている。	呼び名において「ちゃん」付けはしないように指導していますが、利用者や家族が同意した愛称で声掛けを行うなど一人ひとりに合わせた対応をしています。トイレ排泄の介助時に「他者の目に触れない」、利用者の体調に関して「他の利用者の前で発言しない」などの配慮を、職員間で統一するよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が遠慮なく希望を表せるような雰囲気をつくり言葉がけなど自己決定できるように働きかけている。また言葉に出せない利用者の方に於いても表情や行動をみながら配慮工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時々職員のペースになっているように見えるができる限り一人ひとりのペースを重視しながらその人らしい暮らしが出来る様に支援している。カンファレンスでホームの理念を再度確認するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服を一緒に選んだり、ご本人の好みを尊重して頂き身だしなみの支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事の際は利用者の好物を献立に取り入れたり、食事の準備、盛り付け、後片付け等その方に出来る範囲で一緒に行っている	業者から提供される献立付き食材を職員が調理しています。利用者は野菜の下ごしらえや食器を洗うなどの片付けを行っています。誕生会やクリスマスのイベントではケーキやお寿司を食べたり、職員が提案してお好み焼きやおはぎを作るなど食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に応じ水分、食事の摂取量を記録し食事形態を工夫したりして栄養摂取できる様に支援している。また摂取困難な方においては医師に相談指示を仰いでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々の状態にあった誘導、声かけ、介助を行い口腔内の清潔を保持している。また定期的に歯科往診でみて頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツの使用は最終手段と考え個々の排泄パターンを把握し定期的な声かけ、誘導、介助にて支援している。また失敗時にはさり気なく声をかけ速やかに対応し羞恥心の軽減に努めている	日々の排泄パターンを記録し、体調管理に繋げています。定期的に声掛けを行いトイレでの排泄を支援しています。利用者の状況に応じてパッドや紙パンツなどを使用しています。体操や散歩、乳製品を摂取することで自然な排便を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	なるべく薬に頼らず自然排便が出来る様に飲食物や適度な運動を取り入れ予防に取り組んでいる		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	出来るだけご本人の希望に沿って支援する様に心がけている。2時間の入浴時間の中で毎日4～5人の利用者の入浴が出来ている。	2日に1回の入浴を行っていますが、利用者の希望に合わせた支援をしています。状況によってはシャワー浴を行ったり清拭で対応するなど、その人に合わせた入浴介助を心掛けています。基本的には職員が介助を行っていますが、一人で入浴したい利用者には、安全のためドアの外から見守るようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣、意志を重視した支援を心掛けている。なかなか寝付けないときはスタッフと一緒に過ごしたりしながら安心して休んで頂けるよう支援している。また、室温にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋が日誌に綴じてあり職員全員が理解出来るようになっている。また薬が変更になった時には症状の変化等を記録し全員が確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者個々の得意なこと嗜好品を把握し、その得意なことを発揮できる場面や嗜好品を楽しむことができるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出が難しい状況ではあるが、散歩に出掛けたいという方は積極的に出掛けるようにしている。	コロナ禍ですが事業所の周辺を散歩や、車中から季節の桜や菜の花を鑑賞しています。施設の中庭では気軽に屋外の空気を吸うことが出来る場所となっています。コロナ前は法人の事業所合同のバス旅行もあり、利用者、家族、職員が参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍で買い物にも出かけられない状況である。本人、ご家族の希望があればご自身でお金を管理している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望があればいつでも対応できる状況をつくり支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はほど良い広さ、照明で心地よく保たれている。季節ごとに飾り付けを利用者と一緒に施し季節感を味わって頂けるよう工夫がなされている。	廊下やリビングには季節を感じられる飾りを施しています。リビングは天井が高く、天窓があり明るくなっています。音楽が趣味な利用者は毎日ピアノを伴奏してもらい、皆で歌唱しています。本好きの利用者には落ち着いて読書ができるように廊下の一角に図書コーナー設置しています。トイレには寒さ対策のため、ヒーターを設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファ、中庭にはベンチが設置してありゆっくり寛げるように工夫されている。利用者同志で思い思いに過ごされています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の時に馴染みの箆笥やベット、アルバム等を持ってきていただき居心地よく過ごしていただけるようにしている	居室にはエアコンとクローゼットを備え付けています。ベッドやカーテン、家具、家電は使い慣れたものを持ち込んでいます。家族の写真や趣味の物を置き、居心地よく生活できるよう配慮しています。コードレスの掃除機を使い、自室の掃除を行う利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室、居室に札を付けるなどの工夫をしている。わからないような時は誘導し共に行動している。		

事業所名	高齢者グループホームそまやまの里
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	2022/11/28	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を玄関、台所、事務所の共用部分に掲げてあり日々のサービスに於いて理念に沿ったケアが出来る様にしている。またカンファレンス等で内容などを再確認し意識づけに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で今は参加できていないが以前は自治会に入り地域の行事には極力参加させて頂いている。また事業所の行事等にもお誘いし参加して頂き交流をはかっていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で今はなかなかできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で今は集まっての開催はできていないが役員の方々にご協力いただき書面での開催を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話での質疑応答や直接足を運び尋ねたりと協力関係は築けてい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	”身体拘束はしてはいけない”を基に定期的に勉強会を行っており職員は理解している。また基本施設はしていないが安全性を考慮した上でやむを得ず一時的に施設する事もある。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回は研修を行い職員全員が理解し虐待防止に努めている。また言葉がけには注意をはらい、その様な場面を確認した時は直ぐに話し合いを設け防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しては尊重しその人にあった生活を送れる様に支援していく事をカンファレンスにてスタッフに伝えている。また後見人制度に於いては研修にて学ぶ機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご本人、ご家族、管理者で十分な話し合いを設け時間をかけ説明しご理解、納得を得られた上で契約の締結を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、要望はその都度聞いており職員間で話し合い改善に努めている。またご家族に関しては来訪時に何かご意見や要望等はないかその都度尋ね対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングやカンファレンスでの話し合いの中で出た意見、提案などを管理者に相談している。また日常業務の中に於いての意見、提案もその都度話し合い反映させている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は労働時間、勤務状況、職場の雰囲気等個々の状況を把握しておりやりがいを持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験を考慮しそれに見合った研修を受けられる機会を設けスキルアップに努めている。また研修内容を報告する場を設け職員全員で内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍でなかなか交流する機会は作れていない。市の連絡会等で行う勉強会等にはオンライン研修で参加させていただいている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居1カ月は本人の声、様子、要望等を詳しく記録しスタッフ間で共有しながら話し合い安全確保の関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日々の様子を細めに報告し家族との話し合いの時間を十分にとり不安や要望をいつでも相談しやすい環境をつくり信頼関係が築ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず本人、家族に要望を聞き現在の状況、それに見合う必要な支援を見極め、その人が必要としている対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人と家族との関係を理解し、家族との絆を大切にしながら家族と共に本人を支えていく関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	友人の方には自由に来訪してゆっくりと談話して頂いてます。またご本人の希望で職員による代筆で手紙のやり取りや年に一度の年賀状の作製等もお手伝いさせて頂いてます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者同志の関係を把握し必要な時は職員が間に入り利用者同士が楽しいと感じられる関わりが持てる様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	サービス利用が終了した方も時々面会に行かせて頂いたり、退去されたご家族からの相談も受けたり訪問して頂いたりしています。関係性は継続されていると思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した方も時々面会に行かせて頂いたり、退去されたご家族からの相談も受けたり訪問して頂いたりしています。関係性は継続されていると思います。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	好みや習慣等ご本人の意向を把握しながら出来る限りご本人の要望に沿えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報が事務所に保管されており職員はいつでも記録を見る事が出来共有している。カンファレンスで今までの状況経過の説明がされている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日勤、夜勤にて一人ひとりの状態を細かく記録し申し送り等で現状の把握がなされている。変化があれば直ぐに管理者等に伝える様にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一人ひとりの変化や気づきを職員間で共有し話し合い、ご本人やご家族に相談しながらケアプランを作成し統一したケアを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の日誌や特記用紙に記録していき変化等細かい部分も申し送り等で伝え職員間で情報を共有しケアの実践、プランの見直しに反映されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の方の状況、現状に応じて柔軟な支援やサービスを提供に取り組んでいる。例えばマッサージ、フットケア等(現在は自粛中)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物や散歩、ご近所とのふれあい、地域の行事参加等個々にあった資源を把握しながら生活を楽しんでいます。(個別に買い物や外食等)(現在はできていない)		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1か月に2度かかりつけ医の往診を受けており、その他必要に応じ個々で受診し適切な医療が受けられている。また変化がみられた時はすぐに往診医に連絡を入れ指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度看護師の訪問があり個々の情報を伝え相談している。また職員は記録に目を通し情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的には管理者が行っている。入退院の時にはお互い情報交換している。また、医療機関、本人、家族、ホームで話し合いできる限り早期に退院できるように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の意向に沿って出来る限りの対応を行っている。また職員には方針を説明しチームでの支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	講習会等の参加で訓練は受けている。緊急時のマニュアルもファイルしてあるが、実践力を身に付けるまでには至っていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を行っています。そのうち1回は消防署立ち合いで実施している。コロナ禍以前は地域の方にも参加いただいて訓練していた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけにおいては時々気になることがある。その時はその場で声を掛けるようにしているほか、カンファレンスで再度確認するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が遠慮なく希望を表せるような雰囲気をつくりや言葉がけなど自己決定できるように働きかけている。また言葉に出せない利用者の方に於いても表情や行動をみながら配慮工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時々職員のペースになっているように見えるができる限り一人ひとりのペースを重視しながらその人らしい暮らしが出来る様に支援している。カンファレンスでホームの理念を再度確認するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服を一緒に選んだり、ご本人の好みを尊重して頂き身だしなみの支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事の際は利用者の好物を献立に取り入れたり、食事の準備、盛り付け、後片付け等その方に出来る範囲で一緒に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に応じ水分、食事の摂取量を記録し食事形態を工夫したりして栄養摂取できる様に支援している。また摂取困難な方においては医師に相談指示を仰いでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々の状態にあった誘導、声かけ、介助を行い口腔内の清潔を保持している。また定期的に歯科往診でみて頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツの使用は最終手段と考え個々の排泄パターンを把握し定期的な声かけ、誘導、介助にて支援している。また失敗時にはさり気なく声をかけ速やかに対応し羞恥心の軽減に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	なるべく薬に頼らず自然排便が出来る様に飲食物や適度な運動を取り入れ予防に取り組んでいる		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	出来るだけご本人の希望に沿って支援する様に心がけている。2時間の入浴時間の中で毎日4～5人の利用者の入浴が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣、意志を重視した支援を心掛けている。なかなか寝付けないときはスタッフと一緒に過ごしたりしながら安心して休んで頂けるよう支援している。また、室温にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋が日誌に綴じてあり職員全員が理解出来るようになっている。また薬が変更になった時には症状の変化等を記録し全員が確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者個々の得意なこと嗜好品を把握し、その得意なことを発揮できる場面や嗜好品を楽しむことができるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出が難しい状況ではあるが、散歩に出掛けたいという方は積極的に出掛けるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍で買い物にも出かけられない状況である。本人、ご家族の希望があればご自身でお金を管理している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望があればいつでも対応できる状況をつくり支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はほど良い広さ、照明で心地よく保たれている。季節ごとに飾り付けを利用者と一緒に施し季節感を味わって頂けるよう工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファ、中庭にはベンチが設置してありゆっくり寛げるように工夫されている。利用者同士で思い思いに過ごされています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の時に馴染みの箆笥やベット、アルバム等を持ってきていただき居心地よく過ごしていただけるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室、居室に札を付けるなどの工夫をしている。わからないような時は誘導し共に行動している。		

2022年度

事業所名 グループホームそまやまの里  
 作成日： 2022年 11月20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	簡易発電機の作動確認をしていない。	定期的に作動確認を行うようにする。	1年に2回は作動確認を行うようにする	3ヶ月
2	10	コロナ流行により家族会は中止にしているのご家族との直接話す機会が減ってきている。	コロナが収束したら家族会を再開する。	コロナが収束したら家族会を再開するがそれまでは今まで以上に電話やお便りを多くして情報提供していく。	コロナ終息後
3	13	コロナ流行により外部研修への参加を見合わせている。	コロナが収束したら外部研修に参加する。	ホーム内で出来る研修を行っていく。(現在も実施してはいる)	コロナ終息後
4					ヶ月
5					ヶ月